

株式会社 LIXILグループ

株 主 通 信

2016年9月中間ご報告

2016年4月1日～2016年9月30日



Contents

社長メッセージ	02	株式の状況・株主メモ	17
特集:LIXILの価値創造	05	会社概要	18
営業報告	11	株主優待のお知らせ	
セグメント情報	12	お問い合わせ先	裏表紙
株主さまアンケート結果	16		

LINK TO GOOD LIVING



社長メッセージ

取締役 代表執行役社長 兼 CEO

瀬戸欣哉



経営効率の改善を通じて さらなる企業価値を創造します。

効率的で機動力のある組織へ

私が(株)LIXILの社長に就任して11カ月、(株)LIXILグループの社長に就任してから約半年が経ちました。

私がLIXILに来てグループの優先課題の1つとして「効率的で機動力のあるシンプルな組織」を掲げました。そこで、6月には(株)LIXILで執行役員の役職を廃止し、経営幹部の人数を114名から53名へと約半減させました。これらの経営

幹部は1年間の委任契約とし、契約更新は実績を考慮して行うこととなります。新体制の導入は、経営幹部の重責に対する意識を高めるとともに、実績を重視する文化を醸成することを狙いとしています。

加えて、現在進めている本社部門の効率化と経費削減政策に基づき、LIXILグループの常勤取締役および執行役は今年の7月から基本報酬を減額することとしました。また、私の向こう一年間の基本報酬を全額当社の株式に充てること

社長メッセージ

第2四半期累計(上期)の実績[国際会計基準]

(単位:億円)

	16年3月期 上期実績	17年3月期上期			
		予想 ^{※1}	実績	前年同期比	予想比
売上収益	9,424	9,050	8,704	△7.6%	△3.8%
事業利益	401	305	398	△0.7%	30.6%
四半期利益 ^{※3}	△184	110	241	黒字化	119.5%

※1 2016年5月9日公表 ※2 2016年10月19日公表 ※3 親会社の所有者に帰属する四半期利益 ※4 親会社の所有者に帰属する当期利益

を報酬委員会に提案しました。その後、可能な手段を専門家と相談し、結果として基本報酬相当の金額で当社の自社株を購入いたしました。これは私自身がLIXILの輝く未来を強く信じており、また、株主さまと価値観を共有できるように行ったものです。

10月にはLIXILキッチンテクノロジーの日本事業をLIXILウォーターテクノロジー(水回り部門)の日本事業へ移管し、水回り商材の連携を強化しています。

(注)業績管理上、キッチンのアジア事業も含めたLIXILキッチンテクノロジーは継続しています。

グループ会社への追加出資/売却

9月には、グローエグループを100%子

会社化するために、(株)日本政策投資銀行が保有していた同社グループの持分43.75%を(株)LIXILが買い取りました。これにより、ガバナンス強化、意思決定の迅速化、シナジー創出の早期化などで企業価値の最大化を目指します。

一方、8月には、プレカット製品の製造販売等の木材関連事業を手掛けるハイビック(株)を、投資ファンドに売却しました。

新しい企業文化を創る

今後、私たちのビジネスを持続的に成長させるためには、新しい企業文化を創っていかねばなりません。会社を動かすのは、製品の品質、戦略、組織だけで

通期の業績予想[国際会計基準]

(単位:億円)

	16年3月期 実績	17年3月期	
		予想 ^{※2}	前期比
売上収益	18,905	17,800	△6%
事業利益	701	800	14%
当期純利益 ^{※4}	△256	380	黒字化

はありません。文化こそが会社の原動力です。

そのためには、まず、従業員が率直に意見を言うことが大事です。オープンで誠実なコミュニケーション、必要な情報がきちんと流れる・伝えられるようにすることが肝要で、私を含め、役職員の皆が他人の言葉にしっかりと耳を傾ける必要があります。互いを尊重し、そして皆がナンバーワンのメーカーになるという強い意思があれば、私たちは多くのことを達成できると考えています。

世界の衛生環境の改善へ貢献

LIXILグループは、水回り分野における優れた技術力や実績を活用し、衛生問題

の解決に取り組んでいます。

私が率いたLIXIL代表団が、ケニアのナイロビで8月に開催された第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)に参加しました。私は、ケニアの厚生労働省および国土交通省(観光庁)主催の各セッション、およびケニア、タンザニア、エチオピア首脳陣との二国間会議において、日本政府官僚やケニア大統領をはじめとするアフリカの代表団に対し、LIXILの製品と衛生課題への取り組みについての説明を行いました(取り組みの1つ、新興国向け簡易式トイレ「SaTo」をP09-10で紹介しています)。各国の政府当局者や開発機構の代表者などの関心は非常に高く、今後の展開に向けた強い手ごたえを得ることができました。

また、「SaTo」事業に関して、この度、アメリカのビル&メリンダ・ゲイツ財団より3度目の資金助成を受けました。

上期業績および2017年3月期業績予想[国際会計基準(IFRS)]

当上期の実績は、LIXILウォーターテクノロジーの海外事業の順調な成長などから、事業利益^{※5}や四半期利益^{※3}は当初予想を大幅に上回ることができました。

売上収益については、前年度の事業売却の影響(建デポ事業の分社化・ビル事業の上海美特カーテンウォール社の売却等で△257億円)、為替が前年度よりも円高となったことによる海外売上収益の目減り(約345億円相当)がありました。また、海外のビル事業会社、ペルマスティリーザ社が手掛ける物件で、ビルの本体工事が遅れたことにより同社のカーテンウォール取付工事が遅れたことと、同社が利益率重視の選別受注を行った影響もあって、当期の売上収益は前年同期比7.6%減の8,704億円となりました。

事業利益については、売上総利率の改善によって、売上収益減と販管費増を相殺し、前年同期比0.7%減の398億円となりました。海外事業はLIXILウォーターテクノロジーが伸びた一方、ビル事業は前述の工事遅れにより減益となりました。国内事業は、広告宣伝などのマーケティング費用を増加させたため減益となりました。

一部のお客さまにご迷惑をおかけしたタンクレス便器の不具合について、6月には対応をほぼ終了して出荷を再開し、業績への影響は軽微にとどまりました。

金融収益として、グローエグループの持分の買取り等により為替差益を75億円計上しました。前年は元子会社のジョウウウにかかわる損失があったことから上期の四半期利益は赤字でしたが、当上期は黒字に転換しました。

通期の業績予想について、10月に修正予想を発表しました。売上収益については、為替前提を円高方向へ見直し、消費税増税の延期と景気状況を鑑みて、下方修正しました。利益については、上期に当初予想を上回った分をほぼ上乘せしました。

配当予想は変更なく、1株当たり期末30円、年間60円を予定しています。

株主の皆さまには、当社グループへの引き続きのご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

※5 日本基準では営業利益に相当。売上収益-売上原価-販管費。

LIXILの
価値創造

01



簡単・早い・明朗

リクシル
PATTO
リフォーム



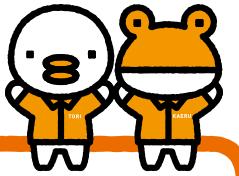
「リクシルPATTOリフォーム大作戦」始動

新リフォームサービス「リクシルPATTO（パッと）リフォーム」は、お施主さまがリフォームに対して抱えている、①費用がわかりづらい、②安心して頼めるお店がわからない、③リフォーム期間や、リフォーム後のイメージがわからない、といった“困りごと”を解決するため、流通店さま、施工店さまと一緒に、LIXILが責任を持って「簡単・早い・明朗」で応えることをお施主さまに約束する新しい“リフォームサービス”として展開していくものです。この趣旨に賛同いただき「リクシルPATTOリフォームサービスショップ」に登録いただいた全国の流通店さま、施工店さまを通じて、お施主さまのご要望にお応えしていきます。



お問い合わせから完了まで
たったの3ステップ!

日本をパッと
明るくしていきましょう!



簡単!

パッと問い合わせ・依頼ができる

リクシルPATTOリフォーム専用フリーダイヤル、または専用ウェブサイト(下記)からお問い合わせください。お近くのサービスショップをご案内します。

フリーダイヤル: **0120-810-864**
年中無休 9:00~18:00(年末年始・夏季休暇は除く)
ウェブサイト: <http://www.lixil.co.jp/reform/patto/>



明朗!

パッとわかりやすい見積り費用

商品代金だけではなく、工事費を含んだ概算価格をウェブサイトに明示することで、従来「費用がわかりづらい」とされてきたリフォーム費用を明朗にします。また、現場調査に基づき、商品代と工事費が入った明朗なお見積りをサービスショップから3日以内にご提出させていただきます。工事日は指定していただくことが可能です。



早い!

パッと工事が完了する

リクシルPATTOリフォーム対象商品なら1日でリフォーム工事が完了します。製品は安心の2年保証、延長保証もオプションでご用意しています。

第1弾となる今回は、最短1窓1時間で取付工事が完了する内窓「インプラス」、1日で交換工事が完了するリフォーム玄関ドア「リシエント」が対象商品となります。



WATER TECHNOLOGY



国内外で広がるLIXILのものづくり

日本の技術を搭載した水回り製品が海外で好調です。9月には欧州でグローエブランドのトイレも発売。統合シナジーがいよいよ、成長の芽として現れはじめています。



デザインと使い勝手のよさを両立した Made by LIXILの品質

「センシア アリーナ」(P07上、壁掛けタイプは日本未発売、床置きタイプのみ国内発売)はグローエ初のオリジナルトイレとして、グローエの洗練されたデザインに、日本が世界に誇るシャワートイレの最先端技術を搭載した、素材や機能にもこだわった製品です。

グローエの「スマートコントロール」(P07下、日本未発売)

※同一部位の摩擦回数2往復で年間365日お掃除した場合。お掃除ブラシで約7万回(100年相当)の往復を想定しています。

は、直観的な操作とLIXILバスルームに使われている革新的なプッシュボタン技術を一体化したシャワーシステムです。

日本のトイレを美しく、心地よい空間へ牽引してきたLIXILのタンクレストイレ「サティス」に、トイレ空間の“汚れ”や“ニオイ”を防ぐ新機能を搭載し、さらにデザインも洗練し発売したのが、新「サティス」(下の写真 左:Sタイプ 右:国際的なデザイン賞「レッドドット・デザイン賞」を受賞したGタイプ)です。新「サティス」は日本のトイレをもっと快適な空間へと変え、生活者に「満足」をお届けすることを目指しています。「センシアアリーナ」と「サティス」には、カンタンお掃除で100年キレイが続く^{*}、新しい衛生陶器の素材「アクアセラミック」を採用しました。「アクアセラミック」はその革新的な清掃性が高く評価され、2016年「グッドデザイン金賞」を受賞しました。



SATIS



世界の衛生課題の解決に挑む



LIXILグループは、水回り製品の分野で世界をリードする企業として、専門知識とノウハウを活用し世界の衛生課題の解決を目指しています。製品・技術開発、各国政府への働きかけ、政府間組織やNGO・学会・民間セクターとの協働といったさまざまな方法で取り組んでいます。

2015年、劣悪な衛生環境によって 世界が払ったコストは約**22兆円**

安全で衛生的なトイレを利用できずに生活している人々は全世界で24億人と推定され、現在の世界人口の実に3分の1に相当します。LIXILグループの依頼に基づいた、英国の研究機関オックスフォード・エコノミクスの調査によると、2015年に、衛生環境の未整備が世界経済に与えた経済損失は2,230億米ドル(約22兆円、1米ドル=100円で換算)にのぼり、2010年の1,825億米ドルからわずか5年で400億米ドル超、20%以上の増加となりました。この数字は、不衛生な環境の影響を受けている国々で平均した場合、国内総生産(GDP)の0.9%に相当します。

22兆円とは?



リオ五輪開催費用の
50倍以上



米国の
教育予算以上



中国の
国防予算以上



ポルトガル、ロシア、
あるいはベトナムの
GDP以上

簡易式トイレ「SaTo」が使用されている国



2020年までに **1億人**の衛生環境を改善する

LIXILグループは、2020年までに1億人の衛生環境を改善することを目標として掲げています。その方法の1つが、LIXIL傘下のアメリカンスタンダード ブランズが開発した新興国向け簡易式トイレ「SaTo(Safe Toilet/安全なトイレ)」(P09写真、プラスチック製の青いトイレ)です。排水口に取り付けられた開閉式の弁によって、排泄物からの悪臭や病原菌を媒介する虫を防ぎます。シンプルな構造、簡単施工、洗浄水がごくわずか、しかも価格が5米ドル未満で、途上国においても多くの人にとって手が届く製品です。2016年7月時点で14カ国以上、100万台以上が使用されています。

主な経営指数の推移(連結)

	当第2四半期 累計期間 自2016年4月 1日 至2016年9月30日	前第2四半期 累計期間 自2015年4月 1日 至2015年9月30日	前期 自2015年4月 1日 至2016年3月31日
売上収益(百万円)	870,428	942,396	1,890,450
事業利益* ¹ (百万円)	39,848	40,120	70,069
営業利益(百万円)	38,310	32,687	39,011
四半期(当期)利益又は損失* ² (百万円)	24,149	△18,366	△25,605
資本合計(百万円)	508,754	580,846	537,308
資産合計(百万円)	2,029,788	2,239,035	2,130,120
営業活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	49,855	35,069	121,085
投資活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△19,980	44,669	19,122
財務活動によるキャッシュ・フロー(百万円)	△4,424	△93,891	△154,403
現金及び現金同等物の四半期(当期)末残高(百万円)	148,540	127,128	129,646
親会社所有者帰属持分比率(%)	24.5	25.4	24.6
親会社所有者帰属持分当期利益率[ROE](%)	—	—	△4.6
基本的1株当たり四半期(当期)利益又は損失[EPS](円)	84.15	△64.12	△89.33
1株当たり親会社所有者帰属持分[BPS](円)	1,733.27	1,983.12	1,828.84
1株当たり四半期(年間)配当金(円)	30	30	60

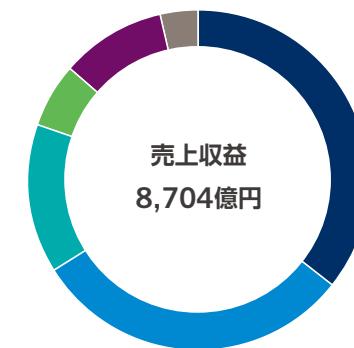
※1 日本会計基準における「営業利益」と同等、事業利益=売上収益-売上原価-販管費
 ※2 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益又は損失



セグメント別の営業状況

	当第2四半期 累計期間(上期) (億円)	前第2四半期 累計期間 (億円)	前年 同期比 (%)
売上収益	8,704	9,424	△7.6
ウォーターテクノロジー事業	3,183	3,332	△4.5
ハウジングテクノロジー事業	2,700	2,781	△2.9
ビルディングテクノロジー事業	1,264	1,693	△25.3
キッチンテクノロジー事業	547	537	1.9
流通・小売り事業	872	987	△11.7
住宅・サービス事業等	323	290	11.2
(調整額)	△184	△195	—
事業利益	398	401	△0.7
ウォーターテクノロジー事業	302	258	17.4
ハウジングテクノロジー事業	196	214	△8.3
ビルディングテクノロジー事業	△8	4	—
キッチンテクノロジー事業	8	5	65.8
流通・小売り事業	49	48	2.0
住宅・サービス事業等	23	23	△0.8
(調整額・のれん償却・取得原価)	△172	△150	—

売上収益内訳(当上期)



ウォーターテクノロジー事業	35.8%
ハウジングテクノロジー事業	30.4%
ビルディングテクノロジー事業	14.2%
キッチンテクノロジー事業	6.2%
流通・小売り事業	9.8%
住宅・サービス事業等	3.6%

国際会計基準(IFRS)への変更について

当社は2015年3月期から国際会計基準(IFRS)を適用しています。従来、株主通信では日本基準(JGAAP)にてご報告してきましたが、本誌よりIFRSベースにてご報告します。

セグメント情報

ウォーターテクノロジー事業

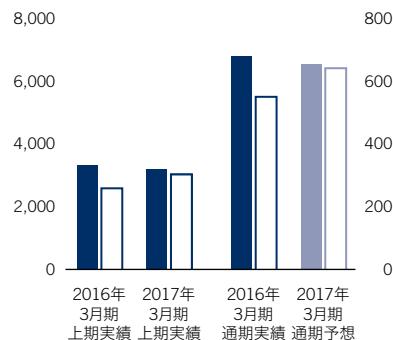


海外での販売が好調に推移し、日本事業はタンクレストイレの新商品発売の遅れがあった中でプラス成長を確保しました。海外事業は販売が好調で現地通貨ベースでは成長したものの為替換算影響などにより売上収益は4.5%の減収でした。事業利益は前年に新規連結したグローエの取得原価配分の償却減や、海外事業の順調な成長(写真:アメリカンスタンダード ブランズのトイレ「ヴォーマックス」)から17.4%の増益となりました。

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



ハウジングテクノロジー事業

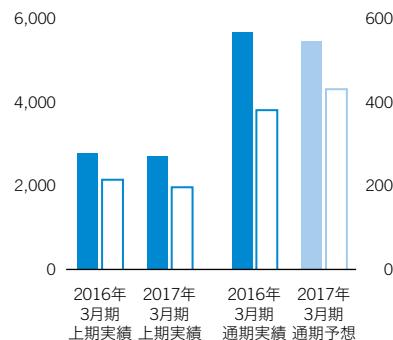


省エネ住宅ポイントが昨年10月に終了したことによる需要の減少などから、売上収益は2.9%の減収となりました。円高やコスト低減活動などにより粗利率の改善が進んだものの、マーケティング活動などの販管費増加で事業利益は8.3%の減益となりました。8月には木材プレカット製品の製造販売等を行うハイビック(株)を売却しました。(写真:ガーデンルームNEW「エクシオール ジーマ」2016年11月発売)

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



ビルディングテクノロジー事業



海外事業においては、ペルマスティリーザ社で近年の選別受注の結果および受注物件の本体工事の進捗遅れがあったことに加え、LIXILの子会社であった上海美特カーテンウォール社を前期末に売却しました。日本事業では物件完工端境期であったことなどから、当事業合計の売上収益は25.3%の減収となりました。売上の減少に伴い、事業利益は前年同様に続き赤字となりました。

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



キッチンテクノロジー事業



4月にシステムキッチン「リシェルPLAT」(写真)を発売し、日本では中高級のリシェルシリーズが売上を牽引しました。中国では合併パートナーのハイアールとの協業再活性化が功を奏し、中国通貨ベースで売上高は前年同期比18%の増収(円高影響で円建てでは2%減収)となり、当部門の売上収益は1.9%の増収となりました。マーケティング費用を増やしたものの、事業利益は65.8%の増益となりました。

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



セグメント情報

流通・小売り事業



住宅・サービス事業等



ビバホーム

LIXIL VIVA

前年10月に建デポ事業を分社化した影響で売上収益は11.7%の減少となりました。事業利益は、新店舗出店費用の増加があったものの、2.0%増益となりました。ホームセンター事業自体は5%の増収となり、上期での過去最高の売上高と事業利益を達成しました。7月にビバホーム足立神明店(写真)を出店し9月末の店舗数は87店となりました。

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



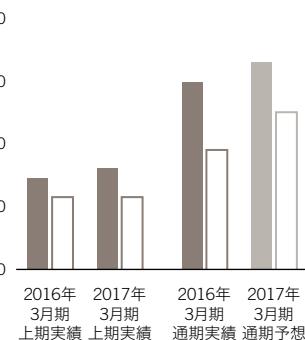
各社が受注促進や販売活動の強化に注力したことや、不動産事業で物件売却があり、売上収益は11.2%の増収でしたが、CM費用等の販管費増加で0.8%の減益となりました。

LIXIL住宅研究所が運営する3つのFCでは、災害等によりライフラインが止まった際でも、約30日間、電気とガスが自立で供給可能な災害に強い家、新商品「次世代レジリエンスホーム『家+X』」を発売しました。

売上収益・事業利益の推移

(単位: 億円)

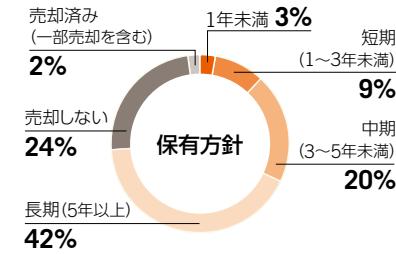
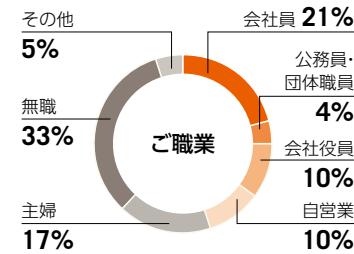
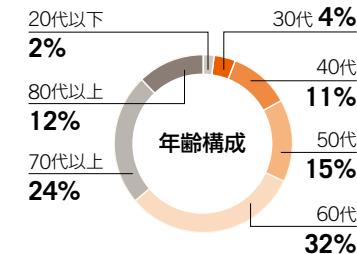
■ 売上収益(左軸)
□ 事業利益(右軸)



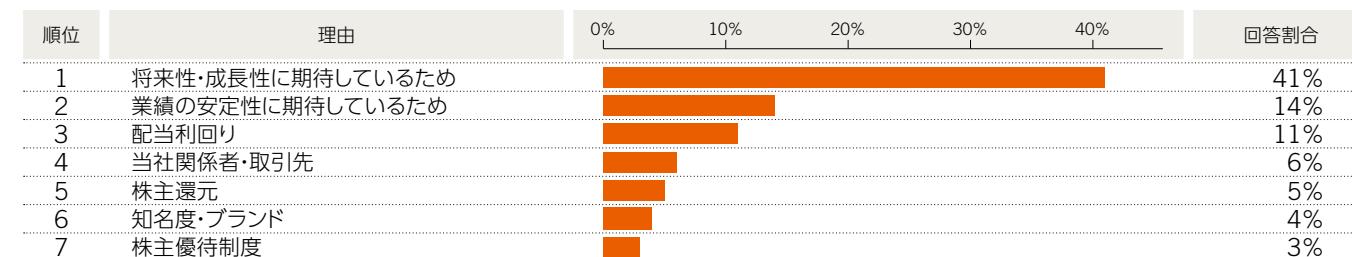
株主さまアンケート結果

6月に実施した株主さまアンケートでは、返信数12,417通、回答率27.7%と非常に多くの株主さまからご回答と貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。ご回答の集計結果の一部をご報告します。

1 ご回答者について



2 当社株式を購入された際、最も重視されたことは何ですか(上位7位)



3 株主さまからのご質問にお答えします

Q. LIXIL(リクシル)とはどういう意味ですか?

A. LIXILとは、「住=LIVING(リビング)」と「生活=LIFE(ライフ)」を掛け合わせた造語です。つまり、「住生活」そのものを意味しています。2011年4月にトステム・INAX・新日軽・サンウエーブ工業・東洋エクステリアの5社が統合した際に、新社名を「株式会社LIXIL」としました。また、持株会社である当社は、2012年7月に株式会社住生活グループから、「株式会社LIXILグループ」へ社名変更しました。

4 当社へのご意見、ご要望

今回も多くのご意見をいただき、誠にありがとうございました。特に「新社長の行動力に期待します」等、6月に社長に就任した瀬戸への期待や、当社グループ製品・ショールーム・ホームセンター店舗等のご愛用、LIXILのスポーツ協賛活動への応援の声を多数いただきました。一方、サービスや株価へのご不満、「M&Aや海外進出はもっと慎重に」といったご意見を真摯に受け止め、改善に努めて、さらなる企業価値向上を図ってまいります。

株式の状況 (2016年9月30日現在)

株式数および株主数

発行可能株式総数	1,300,000,000 株
発行済株式の総数(自己株式26,008,421株を除く)	287,045,834 株
株主の総数	47,427 名

大株主

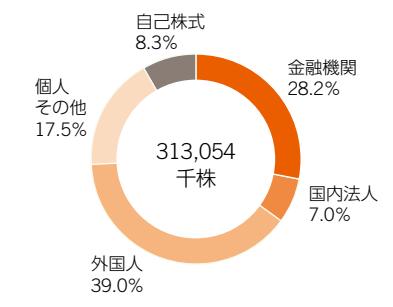
株主名	持株数(千株)	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口	11,056*	3.85%
STATE STREET BANK CLIENT OMNIBUS OM04 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	9,062	3.16%
野村信託銀行(株)信託口	8,896*	3.10%
日本マスタートラスト信託銀行(株)信託口	8,346*	2.91%
LIXIL従業員持株会	6,783	2.36%
第一生命保険(株)(常任代理人 資産管理サービス信託銀行(株))	6,561	2.29%
(株)三菱東京UFJ銀行	5,798	2.02%
(株)三井住友銀行	5,543	1.93%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)信託口9	5,061*	1.76%
公益財団法人LIXIL住生活財団	5,000	1.74%

(注) 1. 上記の他に当社は自己株式26,008千株を所有しています。持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
2. ※はすべて信託業務に係るものです。
3. 野村信託銀行(株)信託口8,896千株は潮田洋一郎氏が委託した信託財産であり、信託契約上、議決権の行使については同氏が指図権を留保しています。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
株主確定日	定時株主総会議決権行使株主・期末配当金受領株主 3月31日、 中間配当金受領株主 9月30日 上記のほか必要ある場合は予め公告して基準日を設定。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 公告掲載URL: http://www.lixil.com/jp/investor/electronic_public/ 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(通話料無料)
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(通話料無料)
1単元の株式の数	100株
上場取引所	東京証券取引所・名古屋証券取引所

所有者別分布状況



金融機関	88,421千株
国内法人	21,783千株
外国人	122,103千株
個人その他	54,737千株
自己株式	26,008千株
合計	313,054千株

お知らせ

- 株主さまの住所変更、買取請求、買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社など)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社などにお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんので、ご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行、電話0120-232-711(通話料無料))にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。
- 配当金の口座振込をご指定の株主さまと同様に、「配当金領収証」により配当金をお受け取りになられる株主さま宛にも「配当金計算書」を送付いたしております。「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。なお、配当金を証券口座でお受け取り(株式数比例配分方式)の株主さまは、お取引のある証券会社でご確認ください。

会社概要 (2016年9月30日現在)

会社概要

社名	株式会社 LIXILグループ
英文社名	LIXIL Group Corporation
設立年月日	1949年(昭和24年)9月19日
本店	〒136-8535 東京都江東区大島二丁目1番1号
本社事業所	〒100-6036 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階
資本金	68,121百万円
決算期	3月31日
従業員数	49名(連結従業員数 59,878名)
主な事業内容	国内外の住生活関連事業・都市環境関連事業を営む会社の株式または持分を取得、所有することによる当該会社の事業活動の支配、管理を行っております。

執行役

代表執行役社長兼CEO	瀬戸 欣哉
代表執行役副社長	川本 隆一
執行役副社長	八木 洋介
執行役副社長	松本 佐千夫
執行役副社長	井植 敏雅
執行役副社長	白井 春雄
執行役専務	ローレンス・ウィリアム・ベイツ
執行役専務	ファ・ジン・ソン・モンテサーノ

委員会構成

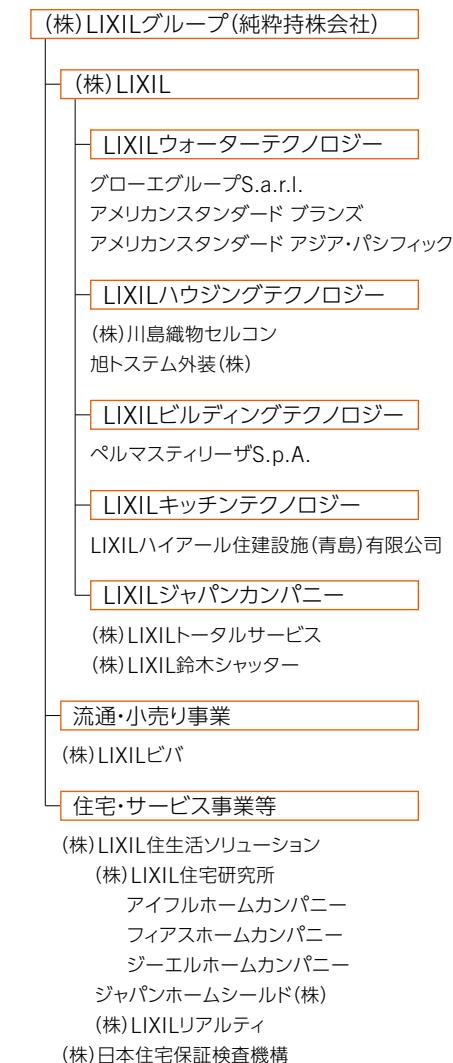
<指名委員会>	委員長	佐藤 英彦
	委員	潮田 洋一郎
	委員	山梨 広一
<報酬委員会>	委員長	山梨 広一
	委員	金森 良純
	委員	菊地 義信
	委員	幸田 真音
<監査委員会>	委員長	川口 勉
	委員	佐藤 英彦
	委員	金森 良純

免責事項 この株主通信には、(株)LIXILグループの将来についての計画と予測の記述が含まれています。これらの計画と予測は、リスクや不確定要素を含んだものであり、実際の業績はさまざまな重要な要素により当社の計画・予測と大きく異なる結果となる可能性があります。

取締役

取締役	潮田 洋一郎
取締役	瀬戸 欣哉
取締役	金森 良純
取締役	菊地 義信
取締役	川本 隆一
取締役	井植 敏雅
取締役	伊奈 啓一郎
社外取締役	佐藤 英彦
社外取締役	川口 勉
社外取締役	幸田 真音
社外取締役	パーバラ・ジャッジ
社外取締役	山梨 広一

主なグループ会社・事業



株主優待がご利用しやすくなりました。

1 リフォーム株主優待

対象LIXIL商品を拡充。商品券10万円分をお送りする条件がシンプルになりました。

2 生活サービス株主優待

通常割引額3,000円のところ、ご利用価格(税別)15,000円以上のメニューで割引額が5,000円になります。

2016年9月30日現在の当社の株主名簿に記載または記録されている100株(1単元)以上を保有されている株主さまへ、「株主優待制度ご利用ガイド2016-17」と「リフォーム株主優待申込書」を本誌に同封しています。皆さまのご利用をお待ちしています。

※株主優待の書類の再発行はいたしておりません。ご了承ください。

詳細は同封の「株主優待制度ご利用ガイド2016-17」をご覧ください。



リフォーム株主優待申込書 (A3サイズ)



お問い合わせ先

株式についてのお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行：証券代行部 0120-232-711 (P17「株主メモ」ご参照)
LIXILグループ：03-3638-9300

本誌の内容についてのお問い合わせ

LIXILグループ：IR室 03-6268-8806

株式会社LIXILの商品に関するお問い合わせ

お客さま相談センターのフリーダイヤルで承ります。商品により電話番号が異なりますのでご注意ください。
受付時間 平日 9:00~18:00、土日祝日 9:00~17:00(ゴールデンウィーク・夏期・年末年始の休みは除く)

- サッシ、ドア、エクステリア、タイル商品 ☎0120-126-001
- トイレ、化粧台、浴室商品 ☎0120-179-400
- キッチン商品 ☎0120-190-521

株式会社 LIXILグループ

本店：東京都江東区大島二丁目1番1号
本社事業所：東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビルディング36階
ホームページ：<http://www.lixil.com/jp/>

表紙、P01-02、P06、P08、P13右、P14右の製品および施工例写真は(株)LIXILの著作物です。